令和２年度　南那須中学校　学校評価報告書

（○：市の重点目標　◎：学校の重点目標）

	重点目標・具体策	取組状況・成果･課題	改　善　策	学校関係者の評価者の意見等
学校運営・教育課程	○「生きる力」を育む特色ある教育課程の編成、実施に努める。	・教育目標の具現化に向け（市の重点目標を踏まえ)、「知・徳・体」の調和を図った教育課程の編成及び実施となるよう、①時間割の固定化②数学科及び英語科におけるＴ・Ｔ授業の実施③校内研修の充実④諸関係機関（特別支援学校、つくし幼稚園、市こども課等）との連携継続⑤校内環境整備係るボランティア活動等の取組を実施してきた。	・コロナ禍の時代における新たな教育活動のあり方（諸関係機関並びに諸団体等との連携のあり方や３密を避けた学習形態のあり方等）について、検討、検証を重ねがら、「生きる力を育む」教育課程の編成・実施に取り組んでいく。	・新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、「知・徳・体」の調和を図った教育活動が計画的に推進されている ・学校経営方針が具体的に示されるとともに、設定された「達成目標」で成果を可視化していることは素晴らしい。
	◎学校運営の土台作りと、本年度の努力点等を踏まえた指導の充実に心がける。	・「教育全体構想図」(「学力の向上」「自己有用感の育成」「安心、安全な学校づくり」の３つが柱）が昨年度より教職員、生徒に周知され、「達成目標」を念頭においた教育活動が継続的に実践されるようになった。	・諸学力調査及び教職員自己評価、保護者、生徒アンケート等をもとに「求める生徒像」の変容を的確にとらえ、数値目標設定の客観性を検証することで、学校運営組織の一層の活性化を図る。	
学習指導	○知的学力を保障し、学ぶ意欲を引き出し、コミュニケーション能力を育む確かな指導力に裏付けられた質の高い授業の展開に努める。	・学校課題を「自ら考え、課題を解決できる生徒の育成－自力解決型の授業を目指して」と定めて２年目を迎え、「ねらいの提示（明確化、共有化)」「自力解決の場」「言語活動の充実（話し合い活動、自分の考えを書く活動)」「振り返り」を位置づけた授業づくりを継続実践してきた。本年度はコロナ禍における授業作りについて、特に「言語活動の充実（話し合い活動、自分の考えを書く活動)」を３密を回避しながらどのように進めていくべきか、試行錯誤しながらの１年となった。感染症予防対策による制約、制限の中、活動が不十分であった。	・コロナ禍の時代においても、主体的・対話的で深い学びが保障されるような学習形態を構築していく。また教科縦断的・横断的な視点で、意図や視点を明確にした発問を工夫し、思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動を充実させていく。 ・教科部会や校内研修で、学力調査等の分析やＩＣＴ活用の授業研究等を継続させ、本校の課題に沿った授業改善に一層努める。	・新型コロナウイルス感染症により、授業形態に制約や制限があるが、創意工夫を施し、学力向上を図ってほしい。 ・授業を参観して、生徒が落ち着いて、そして真剣に授業に取り組んでいると感じた。 ・家庭学習の定着のためには、保護者の協力が不可欠である。様々な保護者（家庭環境）の立場を理解しながら、継続した努力をしてほしい。
	◎学力向上を図るために、生徒への学習支援や一層の家庭学習の習慣化を図る。	・補充学習、読書、「新聞記事」を読み、その内容を確認する活動を教育活動に位置づけた。 ・家庭学習の仕方、自主学習ノートの提出について、全教職員で再確認を行い同一歩調で支援、助言するとともに、「学力向上意識調査」を定期的に実施し、家庭学習の習慣化を図ったことで、改善は図られたが、家庭学習の量及び質を高めていく必要がある。	・基礎・基本を確実に定着させるための宿題(課題)への取り組み方について、その学習方法について具体的に助言する必要がある。 ・自己の学習状況を的確に振り替えらせ、自主学習への意欲を向上させていく必要がある。	
児童生徒指導	○学級を核とした相互理解に基づく望ましい集団づくりに努める。	・生徒会主催のあいさつ運動の実践、教職員からのあいさつと声かけ等、学校全体をあげての環境作りに取り組んだ結果、昨年度よりあいさつが交わされる学校となった。しかし、挨拶ができない、声が小さい、相手が挨拶すれば挨拶できるなどの課題も依然としてみられる。 ・除草、落ち葉掃きなど、生徒が自主的に活動する姿が多く見られた。 ・１分前着席、授業初めと終わりの挨拶、授業中の姿勢など、「学びに向かう集団づくり」の定着化が図られた。 ・スマートフォン等の情報機器の活用の仕方について、「情報モラルアンケート」を定期的に実施し、指導や啓発に活かしてきた。	・生徒会を中心とした、ボランティア活動（除草、落ち葉掃き）の継続と、一層自主的な活動が推進できる体制作り、支援を行っていく。 ・社会情勢の変化に対応した学校生活のきまりの見直しの必要性について検証しつつ、学校生活のきまりを踏まえた「学業指導」に一層取り組んでいく。 ・スマートフォン等の情報機器の活用について、正しい使い方の教育を計画的に実施していくとともに、保護者への啓発活動を継続していく。	・「あいさつ」のできる生徒が増えてきている。小中学校の連携を図りながら継続指導をしてほしい。 ・ＳＮＳによるいじめ問題が社会問題化している。計画的な情報教育に取り組んでほしい。 ・「いじめのない学校」を創るために、「生活アンケート」の回数を増やしたり、対策会議を開催したりするなど様々な取り組みをしている。
	◎自己有用感の育成を目指し、道徳教育の充実を図るとともに豊かな体験活動の工夫を行うことで、望ましい生活習慣及び人間関係の醸成を図る。	・コロナ禍における生徒の心のケアを念頭に、教育相談やＱＵ調査、「生活アンケート」を活用した居がいのある学級づくりに取り組んできた。 ・「道徳科」の授業研究会を計画的かつ継続的に実施し、指導法の工夫、改善を図ることで、道徳教育の充実に取り組んだ。 ・コロナ禍により、生徒主体の活動を推進し、成功体験や満足感を味わわせるための生徒集会や各委員会の活動等を十分に行うことができなかった。	・教育相談や「生活アンケート」の結果を効果的に活用し、生徒の内面的理解を一層進めることで、いじめや不登校等への組織的な対応を図っていく。 ・「褒めて育てる」指導を推進することで、帰属意識の高揚を図っていくとともに、コロナ禍における、成功体験や満足感を味わわせるための活動について、検討していく必要がある。	

	重点目標・具体策	取組状況・成果･課題	改　善　策	学校関係者の評価者の意見等
特別支援教育	○関係諸機関と適切な連携を図った、児童生徒一人一人に応じた指導に努める。	・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当教員が担うそれぞれの役割を細分化をしたことで、組織的な対応が円滑に進むようになった。・すこやか推進室等関係機関と連携を図り、適宜、保護者に電話連絡や面談等を実施して保護者の理解を得ながら生徒への支援が計画的、継続的に行えた。	・生徒の支援計画に基づいた支援が計画的で継続的に行えるよう、すこやか推進室、こども課等との連携を一層強化していく。 ・保護者との連携がなお一層円滑に進むよう、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当を中心とした組織体制の維持及び調整力の向上に取り組む	・諸関係機関との緊密な連携を図りながら、個に応じた適切な支援が行われていることがよく理解できた。 ・様々な子どもがいるので、生徒個々に応じた丁寧な対応を今後も心がけてほしい。
	◎生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実が図れる校内体制の充実に努める。	・個に応じた教育支援計画、応援計画が作成され、その計画にしたがった生徒支援が行えた。 ・配慮事項を踏まえ、生徒にに寄り添った、学習支援や生活支援が組織として行えた。	・校内教育支援委員会を軸に、関係機関との連携を図ながら、個々の支援内容を具体化させながら、生徒、保護者の要望に添った支援を継続していく。	
保健・安管理	○心身ともに健康で明るく安全な生活を送るための基礎が培われるよう、健康教育の充実に努める。	・「学校保健教育計画」に踏まえた健康診断や薬物乱用防止に関する講演会等が、コロナ禍であっても遺漏なく実施できるよう、関係機関と調整を図りながら、柔軟に計画を見直し実施することができた。 ・児童生徒の生活習慣の実態及び課題をもとに、小中連携による継続的な調査、研修が実施された。またその課題について保護者を交えた学校保健委員会が行われ、有識者の助言をもとに生徒の健康面への支援について研修を深めることができた。 ・学校組織をあげて、新型コロナウイルス感染症の予防対策への取り組みができた。	・生徒会や保健委員会主体の健康に関わる活動を一層推進していく。 ・生徒の生活習慣に係る課題について、小中学校及び保護者と連携を一層図りながらその課題解決に向けた取組を継続実践していく。 ・健康教育に関する指導については、消防署やこども課等関係機関等と連携を一層強化していく。 ・食育教育（配膳から片付け、食育に関する内容）の推進を一層図っていく。	・新型コロナウイルス感染症の予防対策のために、様々な取り組みをしている姿が伺えた。先生方のご苦労を推察する。 ・大きな事故がなかったことはよかった。「ゼロの日」をはじめとする登下校中における立哨指導等を継続的、計画的に今後も進めてほしい。また生徒の安心で安全な生活を守るためには、家庭、地域の協力が必要である。
	◎安心、安全な学校作りを目指し、各種の事業等を通した保健安全指導の体制整備の充実と体力の向上に努める。	・交通安全教室や避難訓練等、救急救命講習会の実施、校舎内外の安全点検等が計画的に実施され、適宜課題を改善しながら学校安全の充実に取り組むことができた。 ・生徒が安全に通学ができるよう、「事故０の日」の登校指導や危険箇所の巡視などの安全体制整備について継続をを図った。 ・本地区の課題（柔軟性）を中心に、体育科の授業等を活用した体力作りに継続的に取り組んだ。	・生徒の安全意識を高揚し、自ら安全行動がとれるよう、安全教育と安全管理の徹底を今後も継続して取り組む。 ・生徒や地域に関する情報収集にに努め、組織として指導できるよう、教職員間及び保護者、地域との連携強化を一層進めていく。 ・諸調査を基に、生徒の体力向上に向けた取り組みを継続していく。	
地域との連携	○地域連携教員を要として、地域の特性を生かした教育活動を展開し、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。	・新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、計画された地域人材を活用した教育活動を実施することができなかった。	・次年度からスタートする学校運営協議会並びに地域学校協働本部（地域コーディネーター）スタッフと地域連携教員の関係性を高め、地域素材や人材の確保の充実に取り組む。	・地域学校協働本部立ち上げによる学校支援ボランティアを活用した教育活動の充実を期待している。 ・「学校ホームページ」の更新回数を増やし、学校の情報を保護者、地域に積極的に発信していることはすばらしい。
	◎地域人材や地域資源を効果的に活用した地域との連携に努める。	・学校ホームページの更新回数を増やしたり、各種たよりを配布するなど、学校の情報を積極的に保護者、地域に提供した。 ・新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、福祉活動や高齢者との交流、職場体験学習等、地域人材や地域資源を積極的に活用した教育活動が実施できなかった。	・学校教育活動の様子について、一層の保護者及び地域への情報提供を進めていく。 ・地域人材や地域資源を効果的に活用できるよう、計画等の見直しを図っていく。	